

国連海洋科学の10年—我々が望む海の実現のために

齊藤宏明 東京大学大気海洋研究所



日本海洋政策学会第17回年次大会 ・ 2025.12.6 ・ 東京



自己紹介

▣ 生物海洋学・生物地球化学

▣ 学際研究プロジェクト

深層生態系 (DEEP) 生物大発生 (POMAL)
黒潮生態系 (SKED) 新海洋像 (NEOPS)

▣ 国際プロジェクト・機関

IMBER・IMBeR (IGPB/SCOR, Future Earth)
FUTURE、IFEP (PICES)
PICES Science Board

▣ 日本学術会議特任連携会員 (第20,24,25期)
連携会員 (第26期)

▣ IOC-UNESCO

日本ユネスコ国内科学小委員会調査委員・IOC
分科会主査, 日本政府団, 予算委員会

Advisory Board, UN Ocean Decade (IOC)

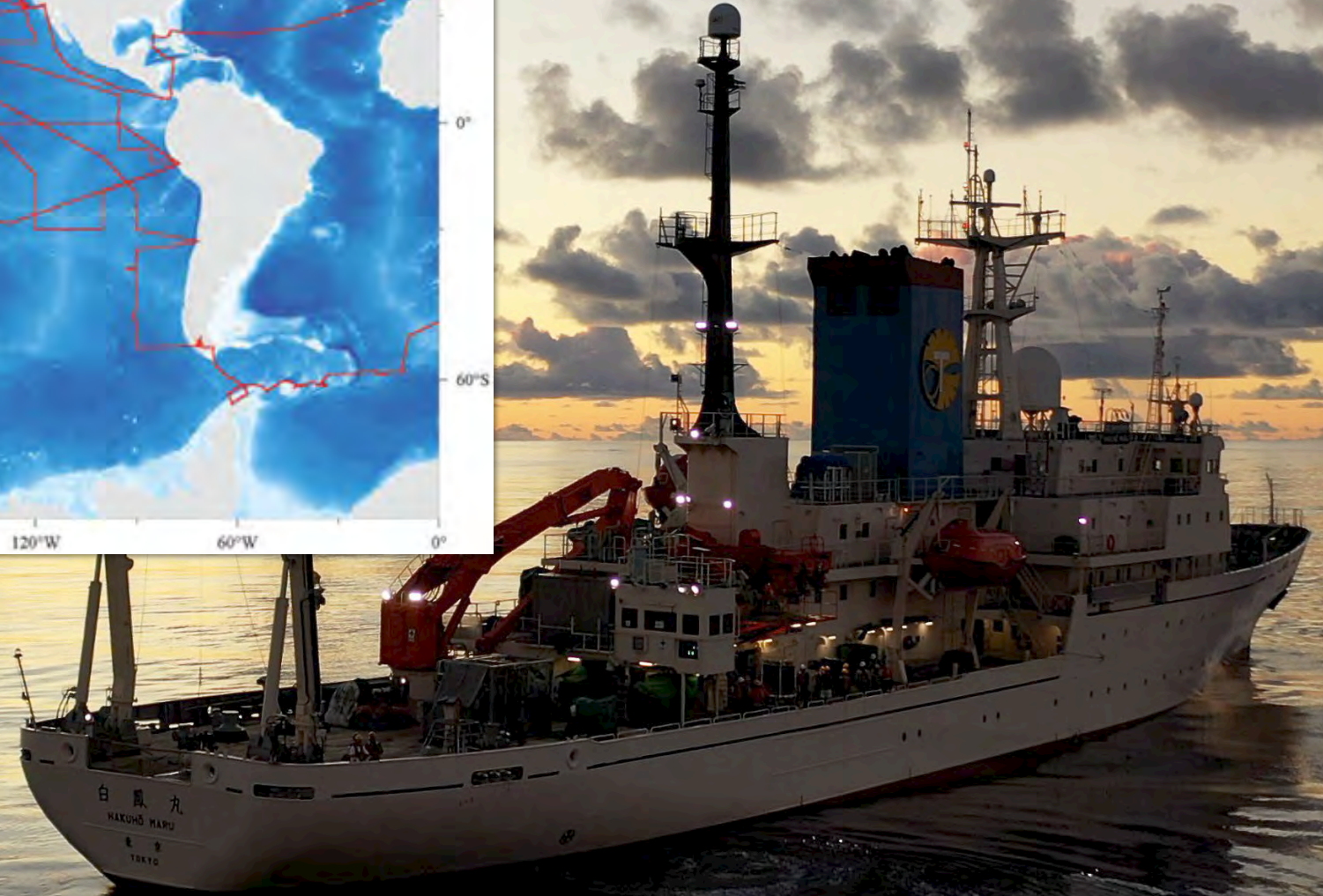
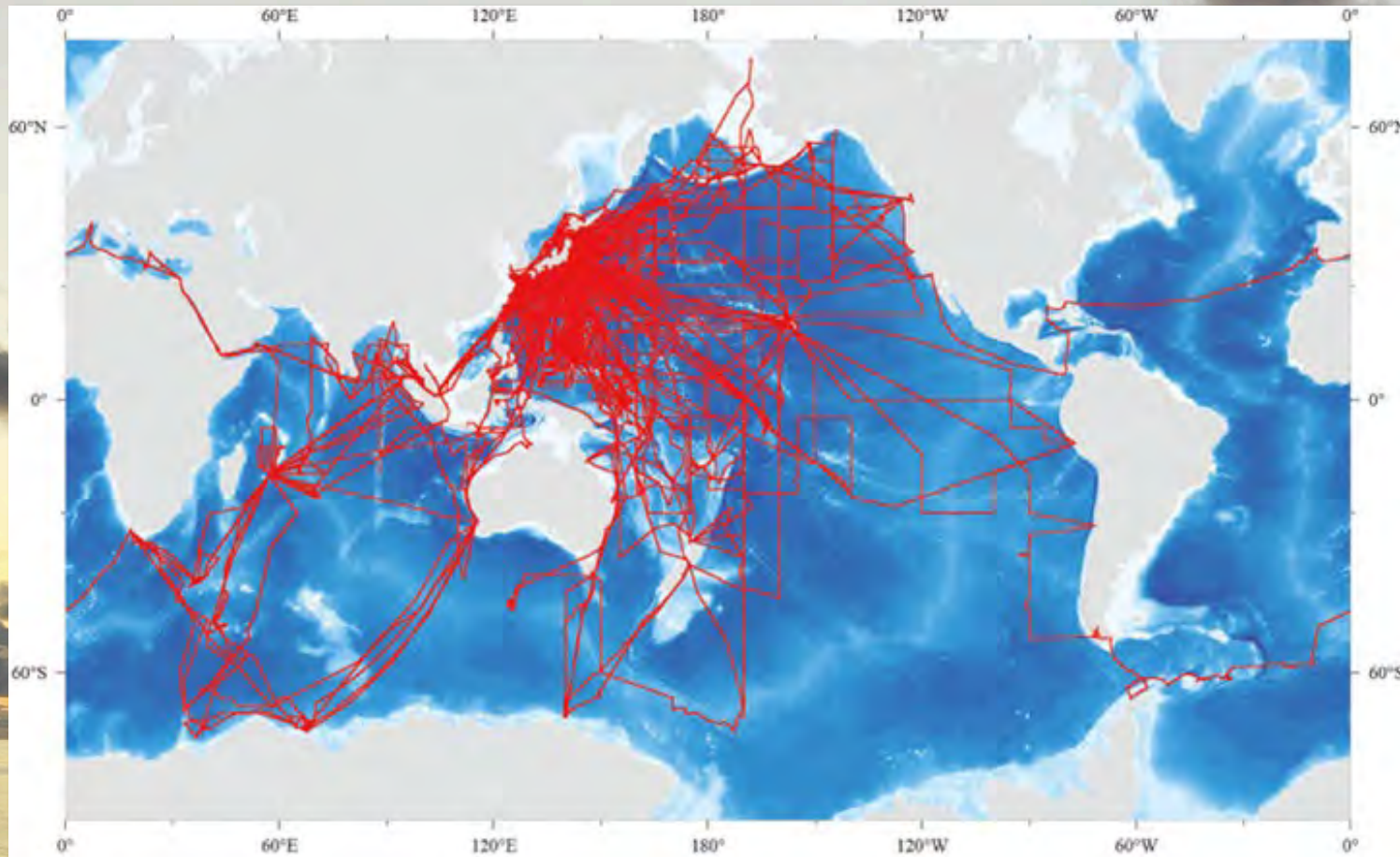


学術研究船 白鳳丸



R/V Hakuho Maru:

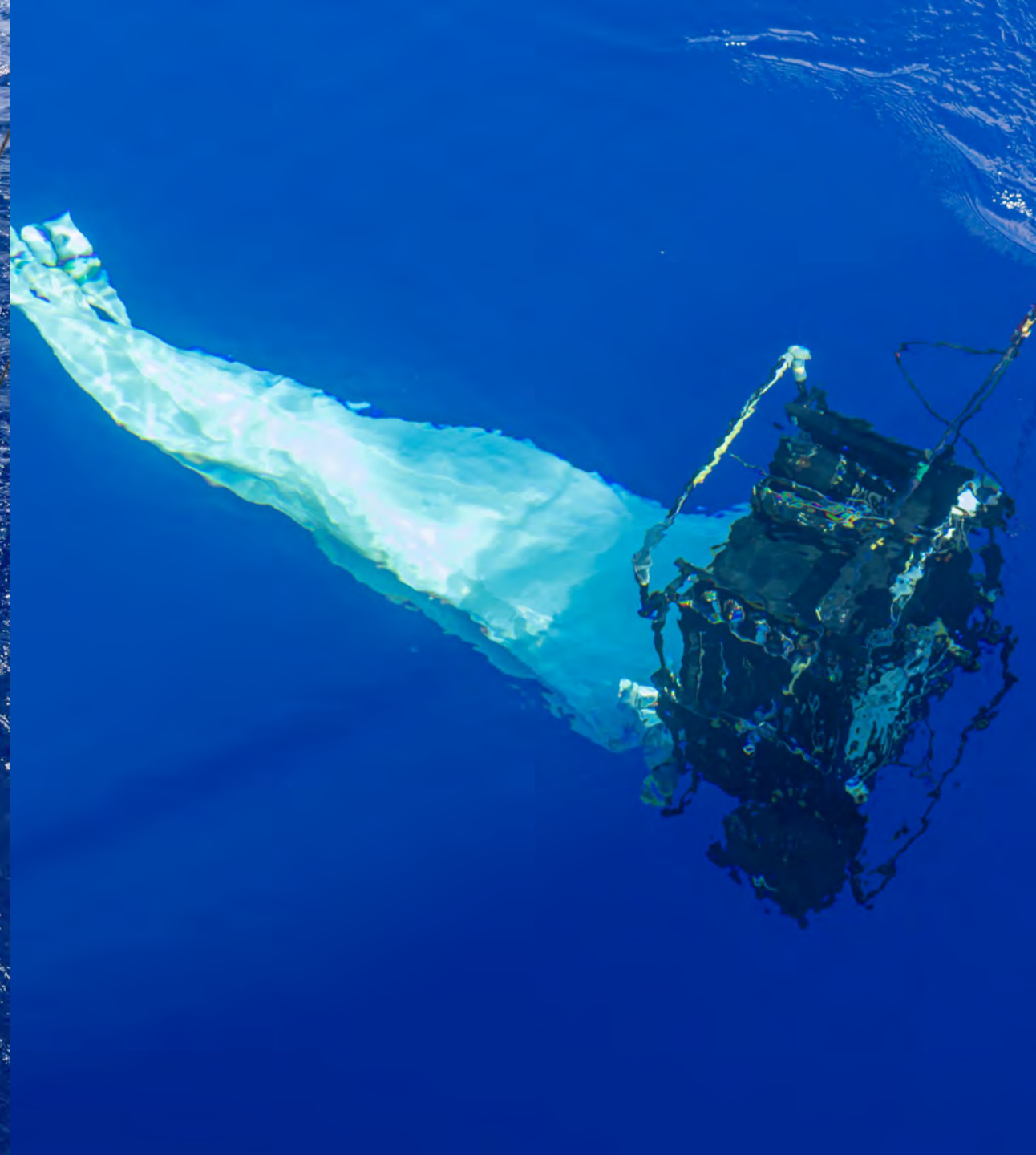
- Built in 1989
 - **Length** **100.0 m**
 - Beam 16.2 m
 - Draft 6.3 m
 - Gross tonnage 4,073 tons
 - Cruising speed 16 knots
 - Range 12,000 nautical miles
 - **Accommodation** 89 (54 crew, **35 research personnel**)
-
- 2004年に東大からJAMSTECに移管
 - 大気・海洋科学共同利用・共同研究拠点である東京大学大気海洋研究所が、共同利用公募によって全国の研究者から航海計画を募集、ボトムアップ型の研究航海を実施













Nurturing ECOPs

人新世 Anthropocene



完新世後の新しい世として提案 (Cruzen and Stoemer, 2000)

人間活動により全球の環境変動および大量絶滅が短期間で起きている

- 大気成分の変化

- 気候変動 (温暖化、降水変化等)

- 棚氷・氷河の溶解

- 元素循環の変化 (炭素、鉄、カルシウム、窒素、リン、鉛、水銀等)

- 植生・土地利用の変化

- 大量絶滅

これらの変化は海洋でも顕著 (海洋熱波、酸性化、サンゴ礁白化、汚染等)

生態系サービスの劣化－社会への影響

社会は生態系サービスの安定的な供給を期待してデザインされている


熱や二酸化炭素の吸収

汚染物質の浄化

過去1万年間に経験した気候の季節変動（気温、降水、風速・風向等）

水産物の生産 等

生態系サービスの劣化や供給の不安定化は、食糧供給や経済活動へ影響するだけでなく、飢餓や紛争を引き起こし、難民を増加させ、独自の文化の基盤を揺るがせ、人々の福祉（幸福）に悪影響を与える

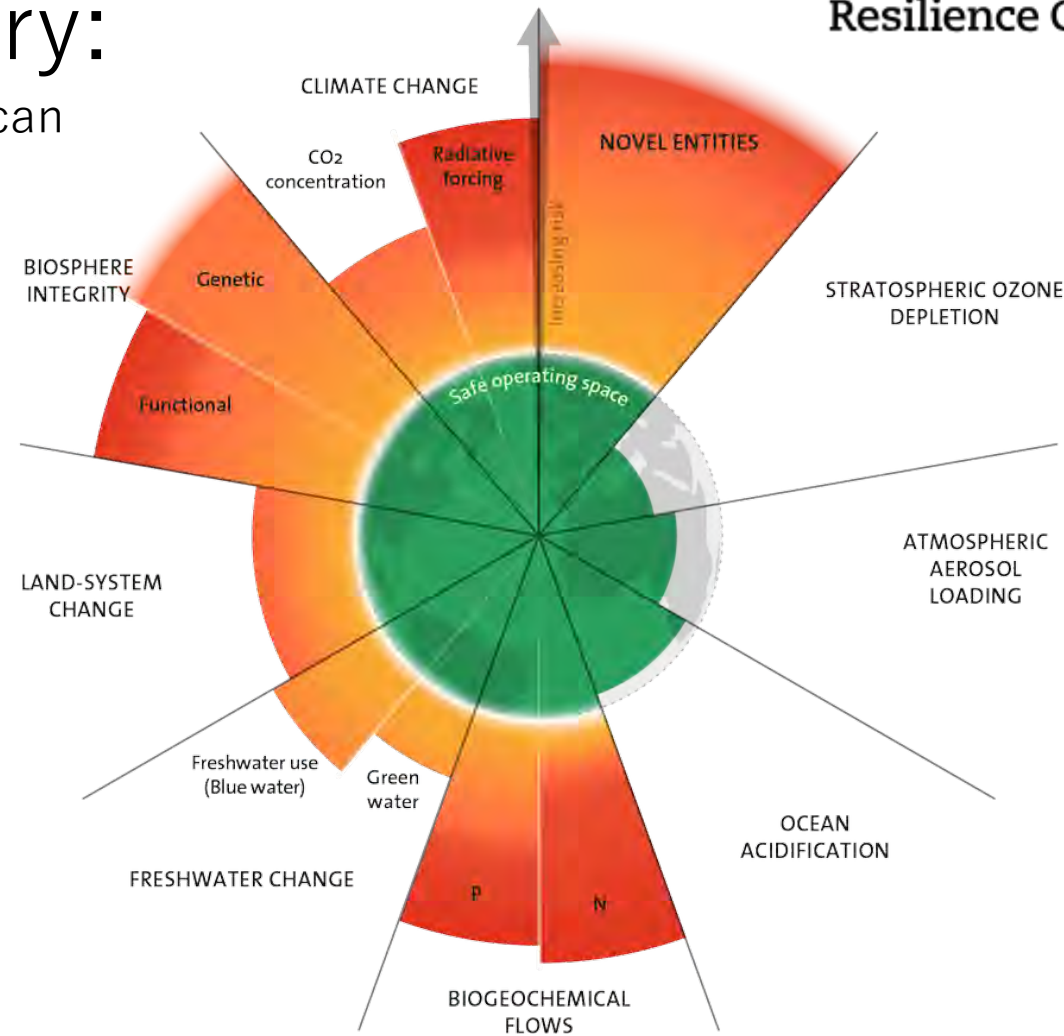


The Earth is on the Planetary Boundary

Planetary Boundary:

Thresholds within which humanity can survive, develop and thrive for generations to come.

Stockholm
Resilience Centre





どのように立ち向かうのか？

複雑な地球システムにおける環境と社会問題
異なる国と文化の非常に多くのステークホルダー

短期的（数年～1世代）に不利益を被る人・ステークホルダーが出ないような解決策はない

持続的な社会と環境を実現するための最善の解決策・対応策策定のため、科学者は適切なタイミングで最善の科学知見を政策決定者および市民に提供することが期待されている

無視するには大きすぎる

Too big to ignore

一人の科学者、一つの国で立ち向かうには大きすぎる
世界の活動として行うべき・国際連携が不可欠

2001 ミレニアム開発目標 (MDGs)

2015 国連サミット採択

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

誰一人取り残さない (*leave no one behind*)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

持続可能な
開発目標
(SDGs)



SDG14



14-1 あらゆる海の汚染をふせぎ、大きく減らす

14-2 海洋生態系の持続的な管理や保護・健全で生産的な海の実現

14-3 海洋酸性化の影響対策

14-4 水産資源の持続的な利用のための管理計画

14-5 科学に基づく10%の保護区

14-6 適切で効果的な漁業補助金

14-7 持続的な漁業と観光・SIDS, LDCにおける持続的な海洋資源の利用

14-a IOCの基準・ガイドラインによる科学知見の取得と能力開発・技術移転

14-b 持続的な小規模漁業

14-c 海と海洋資源の保護・持続的利用のための国連海洋法条約の実施（私たちの望む未来）

SDG14



14-1 あらゆる海の汚染をふせぎ、大きく減らす

14-2 海洋生態系の持続的な管理や保護・健全で生産的な海の実現

14-3 海洋酸性化の影響対策

14-4 水産資源の持続的な利用のための管理計画

14-5 科学に基づく10%の保護区

14-6 適切で効果的な漁業補助金

14-7 持続的な漁業と観光・SIDS, LDCにおける持続的な海洋資源の利用

14-a **IOCの基準・ガイドラインによる科学知見の取得と能力開発・技術移転**

14-b 持続的な小規模漁業

14-c **海と海洋資源の保護・持続的利用のための国連海洋法条約の実施（私たちの望む未来）**



**2021
2030** United Nations Decade
of Ocean Science
for Sustainable Development

2017 第29回IOC総会決議「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」

2017 第72回国連総会「海洋及び海洋法」一括決議

2021年から2030年を「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」と
宣言

2018 IOCの事務局への諮問機関 計画実行委員会（EPG）設立

国連海洋科学の10年への助言、実施計画の起草支援、ネットワーク形成

2020 国連総会「海洋及び海洋法」に関する包括決議において、国連海洋科学の10年実施計画が感謝とともに留意

総合海洋政策本部参与会議等での議論

- 第3期海洋基本計画（2018.5閣議決定）
- 国連海洋科学の10年の実行計画策定及びその実施に積極的に関与し、**SDGs**の達成に向けて我が国として貢献
- 総合海洋政策本部参与会議意見書（2020.6.30）
国連海洋科学の10年に積極的に関与していくことが重要

日本ユネスコ国内委員会 建議

- ユネスコ活動の活性化について（2019.10.18決定）
- 「国連海洋科学の10年」に向けた活動の活性化
- **2021**年から始まる「国連海洋科学の10年」に向けて、持続可能な海洋の保護と利活用における科学の重要性について普及を図ること。また、持続可能な開発のための教育（**ESD**）との相乗効果が得られるような教育関係者との協力も含め、**SDGs**の達成に幅広く貢献するよう分野を越えた連携を図ること



2021 United Nations Decade
2030 of Ocean Science
for Sustainable Development

私達の望む海 The ocean we need for the future we want





2021
2030

United Nations Decade
of Ocean Science
for Sustainable Development

7つの目標

- きれいな海
- 健全で回復力のある海
- 予測できる海
- 生産的な海
- 安全な海
- 万人に開かれた海
- 夢のある魅力的な海

10の課題

- 海洋汚染を理解し対応策を策定
- 海洋生態系と生物多様性の保全と復元
- 世界すべての人々への持続的な食糧供給
- 海洋経済の平等かつ持続可能な開発
- 海洋を十分に活用した気候変動対応
- 海洋災害から沿岸社会をより頑強に
- 海洋観測システムの拡張と活用
- 海洋情報のデジタル化による利用促進
- 科学知見と技術、能力開発への平等なアクセス
- 社会と海との関係を回復するための行動変革



**2021
2030** United Nations Decade
of Ocean Science
for Sustainable Development









2021
2030 United Nations Decade
of Ocean Science
for Sustainable Development

THE OCEAN DECADE

in a snapshot

As of November 2025

ENDORSED OCEAN DECADE ACTIONS

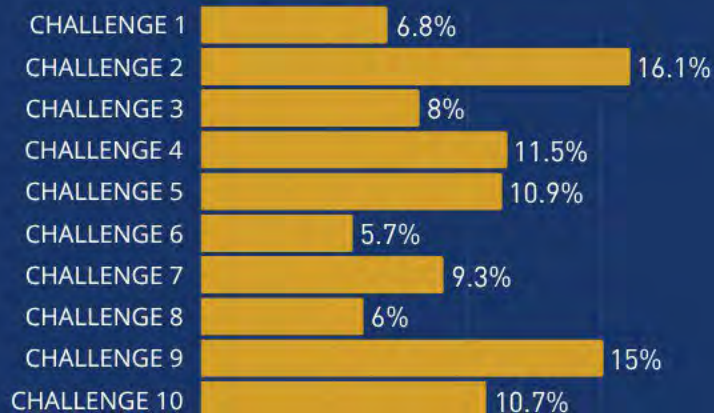


61 PROGRAMMES **127** CONTRIBUTIONS
584 PROJECTS **1,178** ACTIVITIES



DECADE ACTIONS LED
BY PARTNERS FROM **78** COUNTRIES

ENDORSED ACTIONS PER CHALLENGE



REGIONAL AND NATIONAL COORDINATION

13
DECADE
COLLABORATIVE
CENTRES/
COORDINATION
OFFICES

24
DECADE
IMPLEMENTING
PARTNERS



43
NATIONAL
DECADE
COMMITTEES

2
REGIONAL
TASKFORCES

OCEANDECADE.ORG



@UNOceandecade



@un-ocean-decade

ENGAGEMENT AND OUTREACH

6 INFORMAL
WORKING GROUPS

14 PATRONS AND
21 INSTITUTIONAL
MEMBERS OF
THE OCEAN
DECADE
ALLIANCE



OVER **20**
MEMBERS
OF THE
FOUNDATIONS
DIALOGUE



2,313,000
PAGE VIEWS
FROM USERS IN
239 COUNTRIES AND
TERRITORIES ON
THE DECADE WEBSITE
Since November 2024



11 MILLION
REACH
DECADE ADVISORY BOARD MEETING
04/2025
Since 2021



ONE OCEAN SCIENCE CONGRESS

June 3-6, 2025 Nice, France

- 113ヵ国から2150名が参加
- 9 keynote, >500口頭発表、620ポスター

マリンオープンイノベーション機構の五條堀隆所長がKeynoteの一人

- 科学、社会、政策間の対話を促すための33のタウンホール

温暖化、生物多様性、汚染、海洋管理、科学による社会問題の解決、Indiginouse People/knowledge等に関する議論

EUからの科学、多様性を含むSDGsへの継続的なサポートの宣言

アメリカの大学生からのサポートの要請



第3回国連海洋会議 June 9-13, 2025@Nice

Our Ocean, Our Future, Our Responsibility

- 参加者 > 15,000、国家元首・政府首脳 55
- 松本外務大臣政務官、勝目環境大臣政務官、加納特命全権大使（ユネスコ日本政府代表部）らが出席
- 10 Ocean Action Panels 多くの政策決定者がUNDOSへの直接的な関与
- 日本財団によるGEBCO、Ocean Shots等によるUNDOSへの貢献
- 多数のサイドイベント

社会連携、資金移動、海洋汚染(環境省)、生物多様性、能力開発技術移転、市民科学、ECOP

NGO, NPO,市民団体の参加、市民科学の推進

- 運営、セキュリティ



Ocean Decade Forum: Ambition, Action, Impact and the Road Ahead 11 June

Co-designed science as a driver of actionable solution

- 様々なセクターからの”解決“に向けた取り組み
資金移動、技術移転、国・企業、市民科学、ECOP
 - 日本財団からのサポートと活動
 - 日本からの報告および3つの優先事項についての取り組み方針
海洋観測（JAMSTEC, 気象庁等）、海洋プラスチック汚染（Osaka Blue Ocean Vision, AOMI）、科学・民間・政府間対話・Co-designing（JpGU）、喜界島珊瑚研究所の活動、データ、機器開発
- 優先事項： 分野を超えた連携・地域問題の解決・技術革新
日本と世界の連携、SIDS, LDC



Dacade Advisory Board



UN Ocean Decade Advisory Board (DAB)

- The DAB is an advisory body to UNESCO's IOC that will **provide strategic advice on Decade implementation**.
- Members (15) are selected for a period of two years and serve in their individual capacities.
- The DAB will **provide recommendations on the endorsement of programmes** and Decade Collaborative Centres and comment on the consolidated performance of Ocean Decade Actions.
- The DAB will also contribute **to the assessment of resource requirements for Ocean Decade Actions** and raise awareness about the Ocean Decade, including with potential resource providers.
- **Supporting outreach efforts** to raise awareness about the Ocean Decade, **particularly with potential resource providers**

DAB's view on the status of UNDOS

- UNDOSは十分に認識され、全世界で多くの活動が行われている。
- **科学知見を政策、海洋問題の解決に結びつける必要。**
- そのためには、各国の**国内委員会の役割が重要**（科学者・政策決定者・Stake-holder・慈善団体の連携・協働を推進）
- **資金の獲得**
- VISION2030 到達のために進めるべきこと
- UNDOS mid term evaluation/ Decade's legacy beyond 2030
- **ECOPs**
- **SIDS, LDC**のサポート、
- Indigenous and Local Knowledge (**ILK**)

海洋科学の10年は、地球・海洋環境の知見と理解の 基に、国毎の、地域毎の問題を解決するための活動

ひとつの地球

コモンズとしての海

国・地域で

異なる環境

異なる影響

異なる社会・法制度

異なる文化・宗教・価値観

- 各国・地域ごとの科学知見に基づく活動
- 問題解決のための活動は、それぞれの国・地域にあった方法で進める必要
- 成功と困難の共有

国内委員会が重要な役割

NDCs Global Working Meeting

09June@Nice

The Ocean Decade communications strategy at UNOC aims to:

- Showcase the UNDOS's leadership at its midpoint, aligned with the 2024 Barcelona Statement
- Highlight the network of 700+ endorsed Decade Actions
- Promote high-impact initiatives launched or spotlighted at UNOC

Looking ahead to the next five years of the Decade, considering one or more of the following questions:

- What's your NDC's top strategic priority for the next five years?
- What's a key challenge for your NDC?
- What are your NDC's aspirations looking ahead?
- Where are your new learnings taking you from here?



国連海洋科学の10年国内委員会

多様なステークホルダーの参画と産学官民連携の促進、ステークホルダー間のデータや知見の共有、各種行事等に関する情報共有、国連海洋科学の10年において取るべき方向性に関する関係者の合意形成等を図るため、日本国内における国連海洋科学の10年の推進及び連絡調整機能を担う協議体として本委員会を設立する

研究会：

- 海洋科学に関連した情報の共有
- 海洋立国・科学技術立国としての政策実現に向けて、海洋科学分野において日本に期待される役割や特徴、日本の強み・弱みなどについて議論
- 日本の主体的な取組みを促進し、科学技術外交の視点も交えて日本が示すべきリーダーシップを提案するため、取り組むべき課題や貢献策、戦略について検討
- シンポジウム等を通じた普及・啓発の支援など幅広い議論やネットワーク構築に貢献

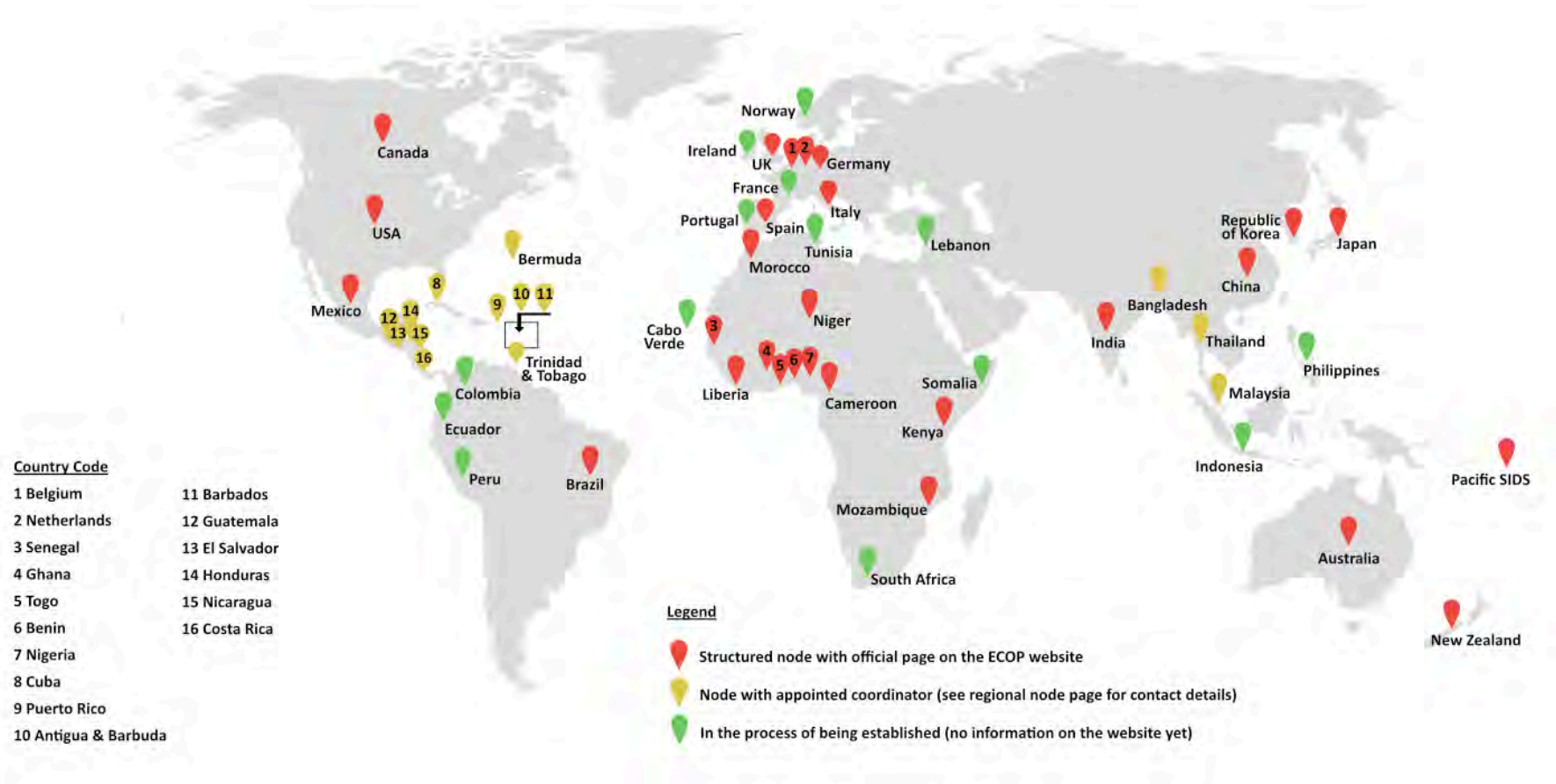
科学知見をどのように使い、社会問題の解決につなげるのか？



ECOP

Early Career
Ocean Professionals

Members	6169
Countries	163
Task Teams	5
Regional and National Nodes	26



ECOP Task Teams



Ocean Literacy



Training and Mentoring



Private Industry



OceanBRIDGES



Diversity, Equity, and Inclusivity

Aims

- Facilitating “casual” network across fields and sectors relating to the ocean
- Collecting the voice of ECOPs in Japan and delivering them to decision makers



ECOP

ECOP JAPAN

Coordinators

Yushi
Morioka



Kotaro
Tanaka



Kohei
Hamamoto



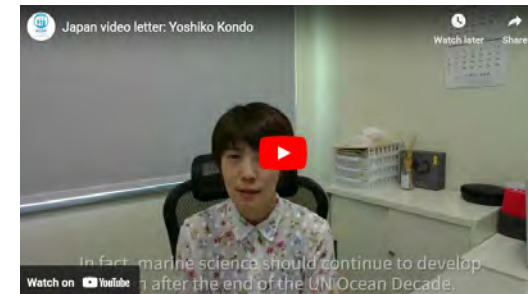
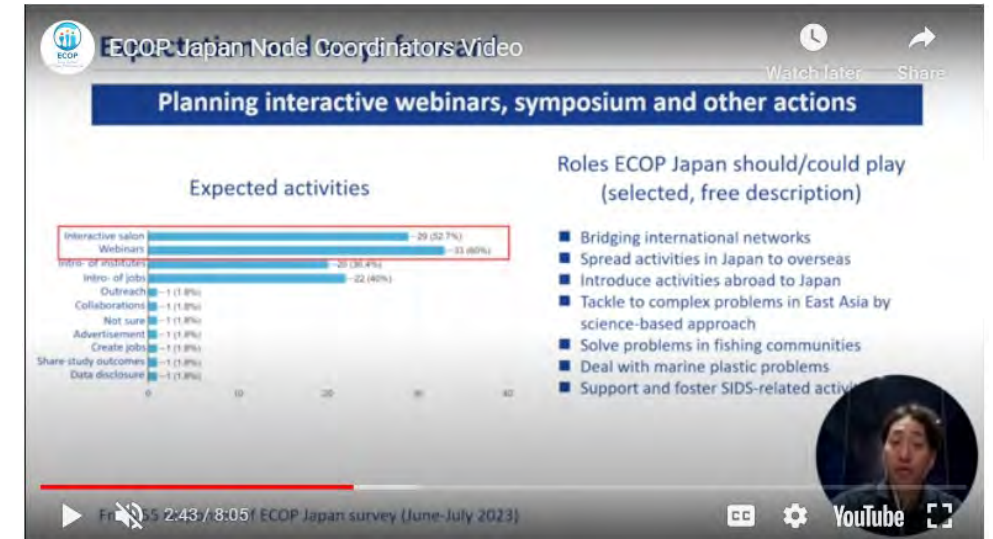
Hana
Matsubara



Keisei
Sakai

“Grass-root” activities for the network expansion in Japan

- Launch website
- Article on Ocean Newsletter
- Video letters
- Presentations at symposiums
- Online survey
- ECOP Japan Symposium



Activities in 2024

- ECOP Japan Symposium and Poster
- X and Instagram
- ECOP Japan radio



ECOP Japan Radio vol.1

ECOP Japan Radioは、海洋に関わる様々な分野（研究、教育、行政、企業、NGOなど）で活躍する日本の海洋若手専門家（ECOP）が、お互いの交流を目的としたウェビナーを開催する。前半はゲスト・ECOPのライフストーリーを聞き、後半は参加者も交えてオープンディスカッションを行います。お気軽にご参加ください。

「サンゴ礁の海とナマコの話」
 ゲスト：濱本 耕平

広島県廿日市市生まれ。幼少の頃は小説家になる夢を持つ進歩少年だった。しかしながら、高校1年生の秋頃にダイビングライセンスを取得。たまたま、瀬戸内海や日本海の水中公園に潜る。その体験を通して環境学に興味をもち、大学で環境学を専攻。卒業後、サンゴ礁に住む、ナマコをはじめとする海洋生物の生態について研究してきた。ナマコに生まれ変わった時のために、ナマコを愛するよう頑張っています。

モデレーター：田中 広太郎

これまで、主に水中自費を用いた海洋生物や人間活動のモニタリングを実施。現在は海上衛星通信を含む海洋におけるデジタル化推進や海洋学推進、海洋における科学技術と社会との関わりについて、調査研究を行っている。また、国連海洋科学の10年のもとでの海洋若手専門家（ECOP: Early Career Ocean Professionals）の一員として、日本を拠点として活躍するECOPの分野を拡大したネットワーク拡大や、他国・他地域との親交を深めるべく活動を行っている。三笠市出身。

お申し込みはこちら <https://forms.gle/D3rdsXWp2dnLp2rAB>

【主催】ECOP Japan (<https://www.ecodecade.org/japan/>)
 「ECOP Japan」は「国連海洋科学の10年」の取組の一環として、海洋若手専門家の交流や交流の促進を行っています。
 【問合せ】ecopjapan.contact@gmail.com





- 国連海洋科学の10年は、ECOPsにとって、科学や海洋活動を実践し、ECOPss およびECOPsを超えたネットワーク構築の最大の機会
- 各国のおよび世界のECOPsネットワークに加入し、それぞれの所属する社会および次世代のための科学や活動の実行とキャリア形成に活用
- ECOPs は持続的な社会と2030以降の人類の福祉のための科学に基づく意思決定に貢献
- 一人ではできない、しかし同じ目標を持つ同志と連帯すれば到達できる

SAVE THE DATE

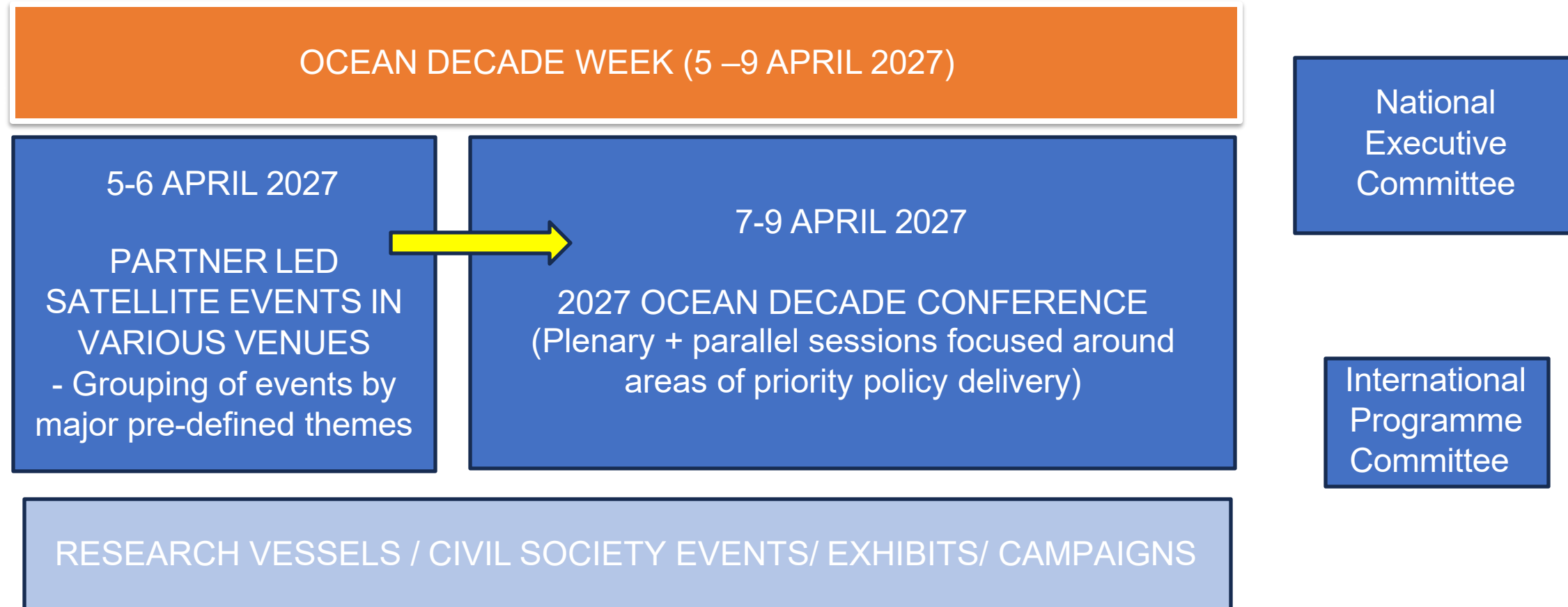
2027 Ocean Decade Conference

7 - 9 April 2027

Rio de Janeiro, Brazil


#OceanDecade27

Overall Structure



A young man in a blue long-sleeved shirt is sitting in a classroom, raising his right hand with his index finger pointing up. He is smiling and looking towards the front of the room. In the foreground and background, several other students are sleeping at their desks. One student in a green shirt is leaning forward with their head on their arms. Another student in a striped shirt is sleeping with their head on their hand. The classroom has a clock on the wall and a window in the background.

どう伝えるか？
Communication

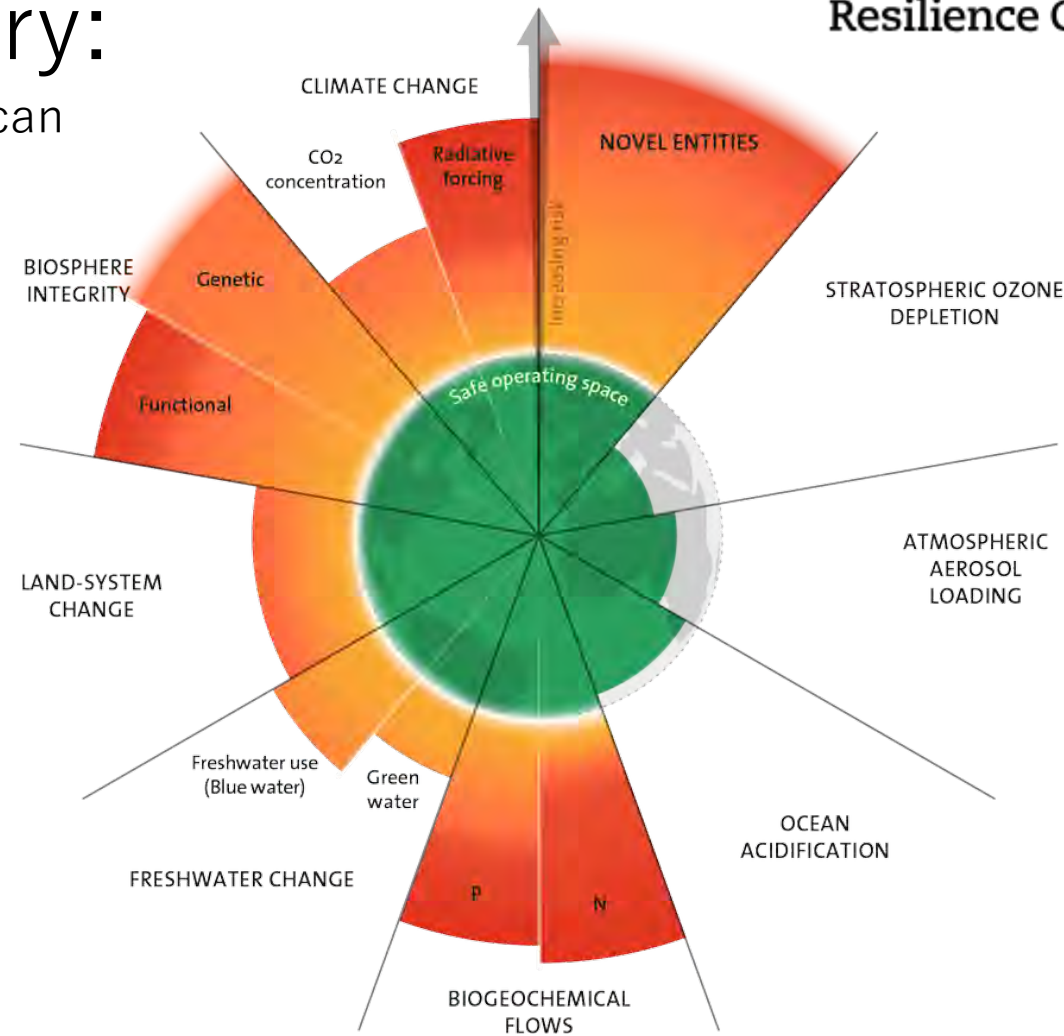


The Earth is on the Planetary Boundary

Planetary Boundary:

Thresholds within which humanity can survive, develop and thrive for generations to come.

Stockholm
Resilience Centre








2021 United Nations Decade
2030 of Ocean Science
for Sustainable Development

私達の望む海は希望を与えるもの
The ocean we need
for the future we want

未来のための活動



A young boy with dark hair and a wide smile is holding a black drawing board with both hands. He is wearing a red and white striped shirt. The background is blurred, showing other children in a classroom setting. In the top left corner, there is a small orange rectangular bar.

私達は未来をより
良いものにかえる
ことができる



2021
2030 United Nations Decade
of Ocean Science
for Sustainable Development